

お薬手帳の重要度および活用度に対する患者および薬剤師の意識調査

お薬手帳は複数の医療機関を利用する患者にとって、重複投与や相互作用を防ぐことができるため有用です。しかし、患者のお薬手帳の理解不足による問題点があります。薬剤師と患者のお薬手帳に対する意識の違いを明らかにすることを目的としてアンケート調査を実施しました。

薬剤師および患者におけるそれぞれのお薬手帳の重要度および活用度との関係について解析しました。

薬剤師において、お薬手帳の各役割の重要度について評価4以上の回答をした割合は、お薬手帳の各役割の活用度の回答と比較すると、「処方せん記載」は重要度より活用度の方が有意に高い値を示しました。一方、他の10項目は重要度より活用度の方が有意に低い値を示しました（表1）。

表1 薬剤師におけるお薬手帳の重要度および活用度との関係

薬剤師			評価5 (人)	評価4 (人)	評価3 (人)	評価2 (人)	評価1 (人)	合計 (人)	評価4 以上	χ^2 検定
問1	処方せん記載	重要度	193	44	15	9	9	270	87.8%	$p < 0.05$
		活用度	213	42	10	5	0	270	94.4%	
問2	薬歴	重要度	189	49	22	7	3	270	88.1%	$p < 0.05$
		活用度	110	105	26	22	7	270	79.6%	
問3	相互作用	重要度	162	55	31	18	4	270	80.4%	$p < 0.05$
		活用度	88	93	45	28	16	270	67.0%	
問4	アレルギー歴	重要度	230	29	9	1	1	270	95.9%	$p < 0.05$
		活用度	53	71	36	66	44	270	45.9%	
問5	副作用歴	重要度	225	35	5	3	2	270	96.3%	$p < 0.05$
		活用度	63	78	34	51	44	270	52.2%	
問6	健康食品	重要度	141	87	27	12	3	270	84.4%	$p < 0.05$
		活用度	29	50	39	73	79	270	29.3%	
問7	体調変化	重要度	166	75	19	5	5	270	89.3%	$p < 0.05$
		活用度	41	60	44	62	63	270	37.4%	
問8	質問	重要度	135	66	48	13	8	270	74.4%	$p < 0.05$
		活用度	29	40	39	74	88	270	25.6%	
問9	医師へ提示	重要度	235	27	5	2	1	270	97.0%	$p < 0.05$
		活用度	165	65	18	13	9	270	85.2%	
問10	携帯	重要度	208	45	16	1	0	270	93.7%	$p < 0.05$
		活用度	150	69	24	12	15	270	81.1%	
問11	一元化	重要度	227	27	11	4	1	270	94.1%	$p < 0.05$
		活用度	209	42	5	6	8	270	93.0%	

患者において、お薬手帳の各役割の重要度について評価4以上の回答をした割合は、活用度の回答と比較すると、「相互作用」、「アレルギー歴」、「副作用歴」、「健康食品」、「体調変化」および「質問」の8項目でそれぞれ有意に高い値を示しており、患者は、処方薬をお薬手帳に記載すること、薬歴管理を行うこと、お薬手帳の一元化について重要だと考え、その役割を果たせるように使用できていると考えていることが示されました（表2）。

表2 患者におけるお薬手帳の重要度および活用度との関係

患者

項目		評価5 (人)	評価4 (人)	評価3 (人)	評価2 (人)	評価1 (人)	合計 (人)	未回答 (人)	評価4 以上	χ^2 検定
問1 処方せん記載	重要度	50	27	14	13	1	105		73.3%	<i>n.s</i>
	活用度	53	25	5	12	10	105		74.2%	
問2 薬歴	重要度	47	30	18	9	1	105		73.3%	<i>n.s</i>
	活用度	33	32	10	16	14	105		61.9%	
問3 相互作用	重要度	32	27	29	17	0	105		56.2%	$p < 0.05$
	活用度	13	20	29	24	19	105		31.4%	
問4 アレルギー歴	重要度	33	21	32	14	5	105		51.4%	$p < 0.05$
	活用度	4	8	24	27	41	104	1	11.4%	
問5 副作用歴	重要度	33	21	38	10	3	105		51.4%	$p < 0.05$
	活用度	7	8	27	26	37	105		14.3%	
問6 健康食品	重要度	15	19	48	16	7	105		32.4%	$p < 0.05$
	活用度	2	6	34	18	45	105		7.6%	
問7 体調変化	重要度	24	20	38	11	11	104	1	41.9%	$p < 0.05$
	活用度	3	9	28	28	36	104	1	11.4%	
問8 質問	重要度	22	27	29	18	9	105		46.7%	$p < 0.05$
	活用度	2	13	24	24	42	105		14.3%	
問9 医師へ提示	重要度	47	23	20	9	6	105		66.7%	$p < 0.05$
	活用度	23	25	11	17	29	105		45.7%	
問10 携帯	重要度	27	34	23	14	7	105		58.1%	$p < 0.05$
	活用度	20	17	16	21	31	105		35.2%	
問11 一元化	重要度	62	24	12	3	4	105		81.9%	<i>n.s</i>
	活用度	61	15	8	6	15	105		72.4%	

お薬手帳の役割に関する重要度および活用度を比較した結果、患者に重点的に説明する項目が明らかになりました。薬剤師および患者のお薬手帳の役割に関する意識の違いに基づいて、お薬手帳の利用を患者に働きかける必要があります。

【発表論文】

志賀仁美, 寺町ひとみ, 鈴木仁志, 駒田奈月, 田村顕人, 舘知也, 土屋照雄, お薬手帳の重要度および活用度に対する患者および薬剤師の意識調査, 日本ファーマシューティカルコミュニケーション学会会誌, 10, 24-35, 2012.